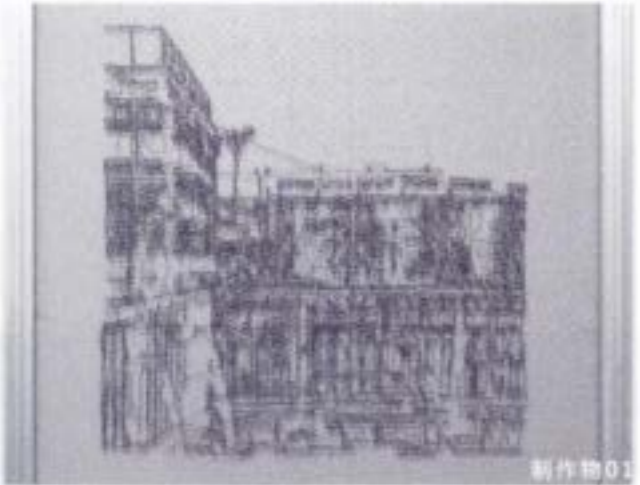


amudo  
編戸 網戸を編む

## 01\_ 概要

本制作は、自宅網戸に風景を編んだものです。

私は、網戸などの物理的にそこにあるのにないことにされてしまう黒子のようなものに光を当てて制作を行いたいと考えています。



## 02\_ 背景

SBC(スチューデント・ビルド・キャンパス)滞在棟の施設の網戸には景観を重視するために中核がありませんでした。そのため網戸に衝突する事故が多発していました。そこで衝突した本人を中心に網戸プロジェクトを完結し、衝突防止の目印かつ、景観を損なわないものを

制作しました。同時に網戸をなかつたことにしたいという設計者の意図、物理的にはそこにあるにもかかわらず、ないことにされてしまう網戸の「黒子性」に気づきました。

デザイン言語総合講座という授業の最終課題はブルーノ・ムナリの「役に立たない機械」を自分で解釈して作ること

でした。私はフェルメールの「真珠の耳飾りの少女」を製作することに決めました。授業内では、全て手動で作っており機械化まではたどり着きませんでした。機械化と環境に適應するソフトが発達できれば、現在の少量種大量生産に対して、多品種適量生産の網戸の新しい可能性があると考えました。

## 03\_ 制作

そこで、本制作の内容を  
①編み図の自動生成



②半自動編み機の作成



③実際に網戸を編むこと  
この3点に充てました。



## 04\_ 目的

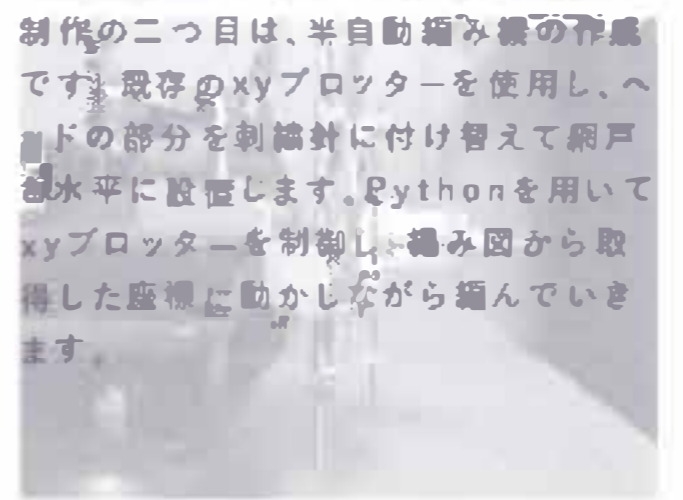
目的の一つ目は、黒子に黒子のまま光を当てるといことです。産産のペンマークやフェルメールの絵画では、網戸の「黒子性」が損なわれ、主役になっていました。しかし、本来ならば決して光が当たることのない黒子に、黒子のまま光を当てるとい矛盾を成立させたいと思いました。

目的の二つ目は、多品種適量生産の新しい網戸を制作することです。現在のこの場所であっても同じという画一的な生産ではなく、網戸の置かれた環境に適應する多品種適量生産の新しい網戸を考えたいと思いました。



## 05\_ 手法

制作の一つ目は、編み図の自動生成です。網戸から見える風景を画像で用意し、輝度の標準偏差(色のばらつき)と平均値(色の黒さ)によって四分木分割をします。中心点をつなげて一筆書きを行い、編み図の自動生成とします。



制作の二つ目は、半自動編み機の作成です。既存のxyプロッターを使用し、ヘッドの部分を刺繍針に付け替えて網戸を水平に設置します。Pythonを用いてxyプロッターを制御し、編み図から取得した座標に動かしながら編んでいきます。



## 06\_ 展望

本制作の展望としては、編みのスケールも展示会場のスケールも大きくし、都市の中で例えば学校にあるこのような編や駐車場によく見かけるフェンス、マンションの橋などの、網戸よりも大きな格子を編むことによって、網戸と同じように存在するのにいないもの、厄介者として扱われる都市の黒子に対しても制作を行いたいと考えています。

